

令和4年度マスバランス方式に関する研究会について



研究会設置の背景と開催概要

マスバランス方式とは、特性の異なる原料が混合される場合に、ある特性を持つ原料の投入量に応じて生産する製品の一部にその特性を割り当てる手法であり、プラスチック製品を含む様々な分野の製品にその考え方が適用されつつある。同方式を導入することによりバイオマスや再生原料の活用促進が期待される一方、同方式の導入による環境負荷低減効果等については、知見が十分に蓄積されていないのが現状である。

こうしたことから、環境省ではマスバランス方式に係る国内外の現状を整理・共有し、企業等関係者及び学識経験者へのヒアリング・意見交換を行い、課題の整理等を行うため、「マスバランス方式に関する研究会」を設置。令和5年2月～3月にかけて計3回の研究会を開催し、マスバランス方式を用いてバイオマス由来特性を割り当てたプラスチックの考え方について整理した。今後この考え方を踏まえ関係省庁と連携しながら必要な対応を検討していく。

研究会の構成と開催状況

委員 (敬称略)

- 相川 高信 (公財) 自然エネルギー財団 上級研究員
- 石垣 智基 国立研究開発法人国立環境研究所 資源循環領域 廃棄物処理処分技術研究室 主幹研究員
- 大澤 亮 (公財) 日本環境協会 エコマーク事務局 基準・認証課長
- 菊池 康紀 東京大学 未来ビジョン研究センター 准教授
- 小林 拓朗 国立研究開発法人国立環境研究所 資源循環領域 資源循環基盤技術研究室 主幹研究員
- 酒井 伸一 (公財) 京都高度技術研究所 理事・副所長
(座長) 京都大学 名誉教授
- 所 千晴 早稲田大学 理工学術院 創造理工学部 教授
東京大学大学院 工学系研究科 システム創成学専攻 教授
- 橋本 征二 立命館大学 理工学部 環境都市工学科 教授
- 平井 康宏 京都大学 環境安全保健機構 環境管理部門 教授
- 吉岡 敏明 東北大学大学院 環境科学研究科 教授

研究会運営

- 環境省環境再生・資源循環局総務課リサイクル推進室
三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

オブザーバー

- 嶋本 浩治 (一社) 日本有機資源協会 理事・事務局長
吉田 正俊 日本バイオプラスチック協会 顧問

開催状況

- ・第1回 マスバランス方式を用いたプラスチックの導入に係る論点 (2/14) 整理
- ・第2回 マスバランス方式に係る有識者・関係者ヒアリング (2/22)
- ・第3回 マスバランス方式に関する研究会とりまとめ (案) (3/8)